



あとがき

社会面連載「もう一度会いたい」（15回）がきょうで終わった。震災遺族の石巻市の今野浩行さん（53）、ひとみさん（45）夫妻の心の移り変わりを描いた。当時18歳の長女、16歳の次女、12歳の長男を失っている。取材者として本欄をあとがきに代えたい。

私事で恐縮だが、僕も4月、21歳の長男を病気で亡くした。震災遺族とは同列にできないが、子に先立たれた親の気持ちは少しは分かるつもりでいる。

こんな記者が震災報道で何をすべきかと考えた時、似た境遇の親に向き合うことしか選択肢はなかった。

夫妻の悲嘆の大きさは僕の想像の比でなく、取材早々に認識を改めさせられた。3人の子全員を失った打撃は、残された親が能動的に生きる力を打ち壊していた。夫妻の発する言葉一つ一つが重く、聞いているだけで胸が苦しくなる。

インタビュー時間は計100時間を超す。取材は振り返りたくない過去を思い出して言葉にしてもらった作業の連続だった。そんな残酷な取材を強いても、夫妻は「いいことも悪いこともありのまま書いてくれ」と協力してくれた。この場を借りて深く感謝したい。

（報道部副部長 伊藤寿行）

2015年12月19日土曜日